

提言書

提 言 1 新しい〇〇づくりについて

《提言の背景》

- ・〇〇は改善しているが、××は依然として全国と比較して低位な状況が続いている。
- ・〇〇を契機として、××が続いており、・・・、△△を踏まえると、□□がとりわけ重要となっている。
- ・〇〇〇〇〇〇〇〇。
- ・〇〇〇〇〇〇〇〇。
- ・〇〇〇〇〇〇〇〇。
- ・〇〇〇〇〇〇〇〇。
- ・〇〇〇〇〇〇〇〇。
- ・〇〇〇〇〇〇〇〇。

このような背景の下、次のとおり提言する。

《提言》

(1) 観光関連産業の生産性向上による持続可能な観光エリアの形成

- ① ○○○○○○を活用した○○○○○○○○への支援を行うこと。
- ② ○○○○○○に対応した○○○○○○○○の強化を図ること。
- ③ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○の導入を促進すること。

【具体的な方策】

- ・ ○○○○、○○○○であることから、○○○○○が行う○○○○○の活動に対する支援など、○○○○○を更に促進すべきである。
- ・ ○○○○○を対象とした○○○○○研修の実施など、○○○○○が進むように○○○○○する必要がある。
- ・ ○○○○○○○○○○に対応するため、○○○○○を育成する体制を構築するなど、○○○○○が重要である。
- ・ ○○○○○を対象とした○○○○○研修の実施など、○○○○○が進むように○○○○○する必要がある。

(2) マーケティングによるターゲットの的確な把握と効果的な誘客の推進

- ① ○○○○○○を活用した○○○○○○○への支援を行うこと。
- ② ○○○○○○に対応した○○○○○○○○の強化を図ること。
- ③ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○の導入を促進すること。

提 言 1 観光振興について

《提言の背景》

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い旅行者の観光に対する意識の変化への対応。
- ・団体から個人、少人数、周遊から体験型といった旅行ニーズの変化に対応したコンテンツ等が不足、充実していない。
- ・デジタル技術を効果的に活用した誘客活動が進んでいない。
- ・コロナ禍の影響を受けた観光業を「稼ぐ観光」による持続可能な産業として、強化する必要がある。

《提言》

(1) 観光関連産業の生産性向上による持続可能な観光エリアの形成

観光エリアを支える人材の育成・確保

- ・県内の学生に対して新プランの内容を伝える機会をつくるとともに、各分野で産学接続のような動きが出てくれば県内就業機会の増大にもつながるのではないかな。
- ・地域資源の発掘や磨き上げには、掘り下げ、育て、伝えることが必要で地元だけでは困難。外部の第三者の視点を取り入れる取組を支援していくべき。

(2) マーケティングによるターゲットの的確な把握と効果的な誘客の推進

ニーズの的確な把握と情報発信

- ・コロナ過で個人旅行へのシフトがより一層顕在化し、客単価の高い宿は衛生面が充実していると好まれるというデータもあり、データを基にしたアプローチが必要。
- ・10代の情報収集はインスタからが多い。年代毎に情報発信のアプローチを検討して欲しい。

マイクロツーリズムの推進

- ・観光事業者の努力に加え、県や市町村の取組もあり、昨年の県内旅行率が激増したデータがある。この成功体験を生かしマイクロツーリズムに対する県民のマインドを高めるような取組を一層行っていくべき。

(3) 時代の変化に対応した秋田ならではのツーリズムの推進

誘客コンテンツのブラッシュアップ

- ・体験型コンテンツはコロナ禍の影響なのか消極的になってきたデータもあるが、インバウンドには以前として根強い需要がある。
- ・暖房等の燃料に廃材や間伐材を利用しているが、これに関心を持って来てくれる人が増えてきており、環境意識の高まりを感じている。

新しい価値観を踏まえた誘客

- ・宿や飲食店から出る生ゴミ等を燃やさず堆肥化すれば、次の作物を育てるエネルギーとなる。発酵堆肥の取組に力を入れることがカーボンニュートラルの推進につながっていくのではないかな。

(4) 旅行者の満足度向上に資する受入態勢の強化

滞在環境の整備

- ・飲食店のおしぼりや箸等を持ち込み制とすれば従業員の感染症対策はもとより、ひいてはカーボンニュートラルにつながっていくのではないかな。

観光情報の充実・強化

- ・旅行情報収集はネット上の検索が主流でありサイトの充実が一層必要である。
- ・県の観光HPから各種の県内観光地等を紹介する観光関連サイトに入っていけるようにしたら良いのではないかな。

(5) アフターコロナを見据えたインバウンド戦略の再構築

提 言 2 秋田の食について

《提言の背景》

- ・本県の食品産業は、地場消費を中心とした小規模事業者主体の構造となり、首都圏等の大消費地への情報発信力やマーケティング力が弱く、マーケットの動向や消費ニーズに対応した商品づくりが進んでいない。
- ・米どころでありながら、秋田米を活用した米加工品の魅力を県内外に伝えきれていない。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大の影響もあり「あきた発酵ツーリズム」の拠点施設への来場が伸び悩んでいるほか、旅行商品の造成も低位にとどまっている。

《提言》

(1) 消費者ニーズを捉えたオリジナルな商品の開発と秋田の「食」のブランディング

秋田ならではの食のブランド化

- ・稼ぐ観光のためには「土産」と「食」を重視すべき。どの価格帯の客層も「食」の楽しみは不変である。わざわざ足を運んでも食べたくなるものの開発が必要。

(2) 食品製造業の振興（産業・雇用に関する戦略の再掲）

(3) 多彩な流通チャネルを活用した国内外への県産品の売込み

(4) 秋田の食の魅力発信と誘客の推進

食の魅力の発信力強化

- ・発酵食文化の感心層は年配層が多いイメージがある。若い世代に向けてはネット配信を上手に活用していくことが効果的ではないか。
- ・県の発酵ツーリズムサイト「本日あきた発酵中。」の体験コーナーの情報が手薄ではないか。
- ・「秋田の発酵」に関する情報をきっちりと伝えられるようになれば良いのではないか。

提 言 3 文化振興について

《提言の背景》

- ・新型コロナウイルス感染症の影響による文化事業の縮小と交流人口の減少
- ・人口減少や少子高齢化により困難となってきた、文化団体等の後継者育成。
- ・感染症の拡大を契機としてニーズの高まる、新たな鑑賞や参加の手法。

《提言》

(1) あきた芸術劇場ミルハスを核とした文化の発信力強化と賑わいの創出

新拠点を中心とした賑わい創出

- ・ミルハスでは秋田の文化発信だけでなく、県外の伝統芸能等を発信すればインパクトがあると思うし劇場の稼働率を上げることにもつながるのではないかな。

(2) 文化芸術の力による地域の活性化と次代を担う人材の育成・確保

文化資源の発表機会の確保

- ・学校の授業では地域の祭りや行事を取り入れ発表する機会があるが、来年オープンするミルハスでもこうした機会があれば、継承につながっていくのではないかな。
- ・絵どうろうまつりが中止となったが、絵付けの勉強会を例年通り実際に行い、バーチャルで祭りの模様をデジタル配信する予定であり、いろいろな工夫によって祭りを続けていくことが継承につながっていくのではないかな。

(3) 文化資源の磨き上げと交流人口・関係人口の拡大

文化の魅力を県内外に発信

- ・コロナ禍を契機として地方に住み、伝統行事に触れたい、工芸品の担い手になりたいといった需要も多いはずであり、こうした方々をうまく取り込んで移住につなげていくべき。

提 言 4 スポーツ振興について

《提言の背景》

- ・ コロナ禍での新たな生活様式に対応したスポーツ実施機会の確保
- ・ 働き盛り世代のスポーツ実施率の向上
- ・ スポーツを通じた地域活性化と交流人口の一層の拡大
- ・ 各種全国大会におけるジュニア層の成績低下

《提言》

(1) 若年期から高齢期までライフステージに応じた多様なスポーツ活動の促進

スポーツ参画人口の拡大

- ・ コロナ禍でありながら、成人のスポーツ実施率が高まっており、このまま上昇するようにして欲しい。

(2) スポーツによる地域活性化と交流人口の拡大

観光との連携

- ・ スポーツ振興について、人を呼ぶことに関しては観光と密接な関係にあり、観光と一緒にできるものをもっと強く打ち出したらいいいのではないかな。

(3) 全国や世界のひのき舞台で活躍できる選手の発掘と育成・強化

次世代アスリートの発掘と育成

- ・ 競技力向上と交流人口拡大のためにも、マイナースポーツに徹底的に力を入れていくべきではないかな。

(4) 地域のスポーツ活動の基盤となる人材の育成と環境の充実

提 言 5 交通ネットワークについて

《提言の背景》

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、県内空港の各路線の利用者をはじめ、県外との往来が大きく減少している。
(秋田空港 R 元年度 129 万人→2 年度 27 万人、大館能代空港 R 元年度 15 万人→2 年度 2 万人)
- ・人口減少や運転手不足に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響等により住民生活の基盤となる、生活バス路線や第三セクター鉄道等、地域公共交通の維持・確保が一層困難になっている。
- ・県民の生活や経済活動、地域間交流等を支える高速道路ネットワークにおいて、ミッシングリンクが存在している。

《提言》

(1) 幹線鉄道の整備促進とフェリー航路の利用拡大

(2) 国内外とつながる航空路線の維持・拡充

(3) 地域公共交通の確保と地域の創意工夫による利便性の向上

(4) 第三セクター鉄道の持続的な運行と観光利用の促進

安全・安心な交通ネットワーク

- ・交通ネットワークは生活だけでなく観光にも直結してくるので、災害に強い道路や鉄道であって欲しい。

(5) 高速道路等の整備

観光との連携

- ・国道 105 号「大曲鷹巣道路」(秋田マタギロード)については、観光を中心に利活用促進の検討が行われており、道路と観光の連携をしっかりとやって欲しい。

安全・安心な交通ネットワーク

- ・冬期における適切な道路除排雪の実施など、円滑な道路交通の確保をお願いしたい。
- ・交通ネットワークは生活だけでなく観光にも直結してくるので、災害に強い道路や鉄道であって欲しい(再掲)。
- ・道路はつながるだけではなく、安全・安心、快適なネットワークとして構築し、質的な向上を図るべきだ。